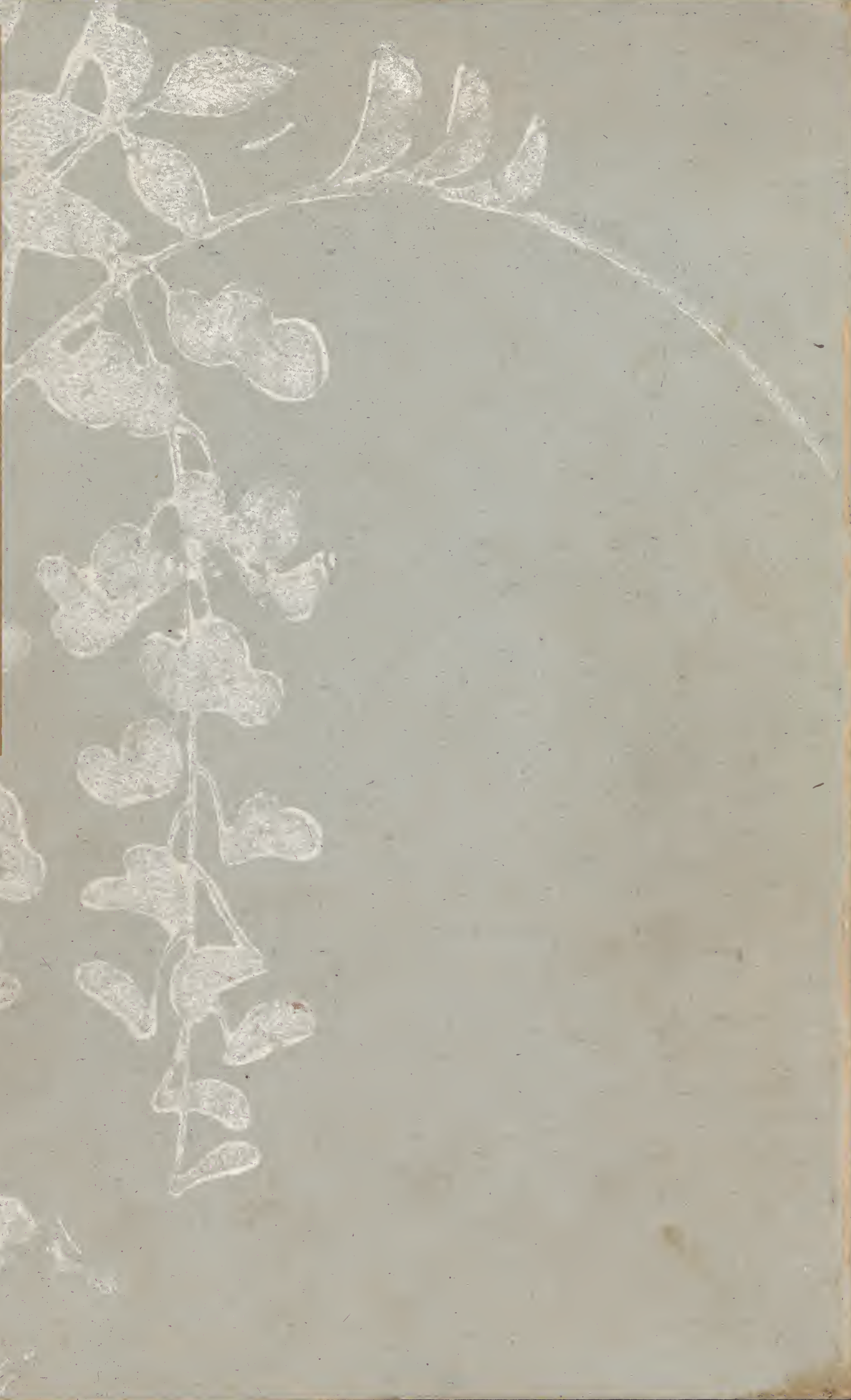


櫻河



男詞

加様より老い東國を於人商人
 ゆるし我久しく朝よりひり
 ほどに築き急は向ふ所ちまじり
 みゆ日能苦難よおそなき人を
 買とわたりんが女入りては
 この文と力乃代を後の馬場の
 西よりぞくくくはけく見たり

夫もいふとけいも後へ
 ぶん様子乃母のあつし
 ばあつちのあつちのあつち
 案内をすけし存し
 案内中の様子の母乃
 一、男 けいも
 様子のけいもはあつちの
 夫もいふとけいも後へ

一、男 けいも
 夫もいふとけいも後へ
 案内をすけし存し
 案内中の様子の母乃
 一、男 けいも
 様子のけいもはあつちの
 夫もいふとけいも後へ

ひと高人よ方城賣つあはま子
 集いにわさくあま子いうは
 まあ子いも能を屋あ
 心ゆげゆ々の人も能あま
 志しひあわてるもあつまう
 出離乃孫とては様をもの
 たものあやうだまういひくも

御名残よりおううん 必残
 惜くを何しうはそ母由は
 わうるうあ あまひとまぬさや乃
 原乃たのづくあうくく
 受時も子城みもはあう慰む
 ぞわろくあ我新女神もこの
 まく屋ひめ此は氏子なる物を

三、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
後子とめくちたひたまふくどかゝ
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
くまにやうり神さ家おへのどま
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
何よるの昔をだえてはきてしき
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
かなふくは我子の行浦をむこ
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
泣く迷ひおを越く（第）比箱
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
ゆく家梯るさく山路の春よ
一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、
急（早）の雪は是に常陸國成さる此

位僧少くすまは是よわか
おきなよ人きん片をた志るん
過僧を頼より伝ふ程よ師才に
契物をりてはまゝはあくわに
操川とて華の必所乃はみか錢
盛の由中人程よおきなよ人を
とぬがひ中噴々操川へとはむい

上

流くらん山ののもしも娘も隠し殿
 せうわがじ雲乃木の陰志くま
 みたわびをたまはるぬやね乃
 葉色も春めあそおも浮あ
 糸のがえぞくく川ゆもほよめ
 くらわくく詩ふま申るなほも
 なうと御しそまうまち中て依

下

せんらけく由付ゆる種よきそ
 なうありわきてはあゝ見るや
 今を盛とみえさる男申く能事
 花ハケリさうまよさるはみ愛よ
 面白き子みん女物狂のん
 うはくあひくひ細を持し様
 川も流るも家をゆくひん

き〜〜いおち〜ろ〜狂ひは
是よ志〜〜を以座人のさげ物
〜ふひをおきなき人 の詩 とも〜物
戸〜〜き〜〜狂〜〜 の詩 は毛
物狂を〜彫〜〜め〜狂〜〜
男
心〜〜の〜座あ〜〜狂物狂
〜狂も狂ひ〜〜いあ〜〜狂もあ〜

後三上

〜彫〜〜へ来狂と〜〜
〜〜〜〜〜
あまが〜あまがり人操川よは花の
教らり の詩 はちわ〜〜にあわたる
とあ〜〜座あまが〜あまがり
〜とやひあ〜〜乃あ〜の流〜
〜あまをやま〜あまがら 上巻 ばら〜あま
水の方〜〜とあ〜〜狂い〜あ

あもりのるるをふくならむ小くわ
やうにほくくまわたりし
花もやうとるを遊ぶ乃も様ソ郎
桜花ちわりし風のよ残少は
^{上地}水なきさき子波うき流 思ひも
深交毒の雲 ち流冬がみく乃
川や〜 是み出〜 花物狂の

故〜ハ〜 日向のもみぞも
思ひ子を失ひし思ひ〜 あり
^下心ほく〜 流ぐえん山越了 筑崎乃
浪立出えし磨の浦み〜 駿河の
海こて帯陸とあま〜 下里ま〜
き〜 ぬをや〜 のんちちが〜 詞
り〜 旅を〜 せ〜 爰〜 又

かゝる有り様は横川とくぞも
面白交必所ある^事がわりの様子を
ぬも様子なまき^るごとく見えしひ
折しつとひひぬもな^るし
三三上
横川小教うとむの雲城を^り
ぐん^りく^くふ^ふ乃り^乃見
二二上
残さん ^事むとわ^りみ^みま^まま^まま^ま

おやこのく^くり^りも^も志^志
あまき^きの^のは^はひ^ひ那^那乃^乃なり^り
おとろ^ろ魚^魚は^はだ^だと^とひ^ひ阿^阿ふ^ふや^や親^親
子の^のお^おも^もま^まの^の事^事を^をこ^この^の事^事に^にし^しり^りぬ^ぬ
う^うい^いえ^えや^や志^志り^りー^ーあ^あう^うあ^あこ^こに^にわ^わ
し^しる^るし^しら^らぐ^ぐ終^終り^りる^るへ^へな^なあ
物を^の我^我子^子乃^乃む^むハ^ハな^なも^もあ^あぬ^ぬ

女物取乃事とくあまこころは
 女奇く飛りやと思ひらるる
 へ物なら狂女おさまる此國里ハ
 心清くお考るハナシかたこりか
 清くハナシのもおまこころは へう物
 河さうやうに粗乳とてな
 たるうハナシとく喉ひとるまあは

志連物見おんともまよふらま
 離ハナシ了ん程よ思ひりるま
 あハナシくはなやとま
 う清くきくひ何え哉も
 流あゝ花をひくひあつ
 渴飲のなハナシきくはな
 中へ事とくハナシとく

我故つのは神と成るを嘆や
ひめを^りては神神に操本とを
清入るごと飛んわりの神一我子も
御一氏子なまは操子と必はき
うぬえ^上は神乃は名も必や
ひめをぬる子の名も操子と
ま^まの川もさくく川乃名も

が成^一お^一お^一あ^一わ^一成^一あ^一
と^一あ^一あ^一な^一わ^一謂^一を^一
ま^一け^一ら^一面^一白^一や^一美^一河^一子^一も^一孫^一也^一
ま^一く^一わ^一ぞ^一り^一も^一ま^一さ^一は^一く^一も^一わ^一
東^一語^一乃^一操^一川^一ま^一く^一が^一も^一新^一ふ^一も^一
孫^一よ^一な^一ふ^一先^一け^一川^一の^一か^一も^一わ^一ふ^一
ま^一の^一ま^一わ^一の^一ま^一わ^一の^一ま^一わ^一の^一ま^一わ^一

川の勢なり 上地 ち ま ひ ら る え も
桜川づく 流 る 花 を し く り 花
い ふ か も と あ う く く 母 ち と 枝
まの 建 水 の い 申 ふ を ま き い 家
花乃 袖 う 流 水 衣 ち ら る 春
とち な く は あ る 月 冷 く
のき う り ま う う 鶴 の 意 く の

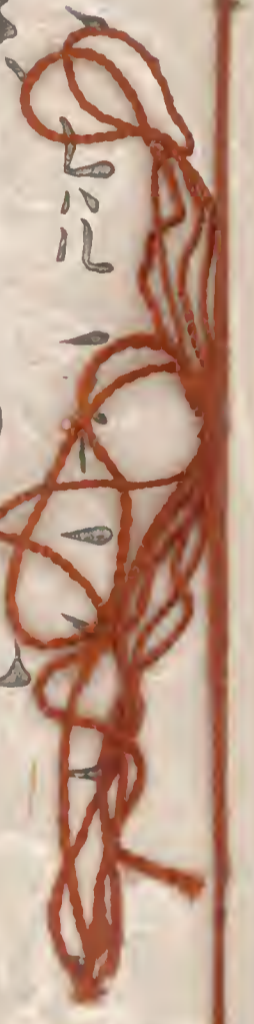
花を あ る を 思 い 洞 林 深 く
風を 含 む 山 花 牙 う 絲 よ 似 く わ
溜水 た う う あ ぬ 乃 こ も う
面白 や 思 い い 愛 み う れ あ え
もも な は く い え 桜 川 の 一 枝 乃
花一 河 乃 な り 終 ぬ 了 志 あ ぬ も
所う あ ひ よ あ ひ な は 桜 子 の

是又他生の縁なるを 実や
年を短く兼乃鏡と方家水光
教の縁をや多も縁此りふく世
ほたぬきは後ハあくるまは
下 兼と思ひし志家方もきく
我も夢なるを花のみに
ちりなるを花の梢よりあはしに

教め家兼なるがちるも水の
あはれはしきし彼乃花よ
のみあはれもくはを考たぬ
悔乃ハ手度百子古花もなまは
下 あり方きく所を短くや
ま短くがけしはありしを
出づめ家なるを

なまのみのみゆりか
液里の波りきりひら
帯比がこもるうわに
あこりなをーと水を
雲をたそぐきかえ乃
志し見つけまもが
那やまもるもる花さ
か

下



ひめの侍神木の花なまな風も
らあえあも信を濁ひなも
被をひたし齋城志をりて
さかみよるんの水をきもかえ
さくら川はなまらよあ
操乃くくどるあな物にか
葉もま風もはらまら

まきゆぬ 上巻 へいそんはろちあふ
うた 上巻 けろりえ 下 舞
か 上 我身柳乃志操 上巻 露の万少人
うた 上 けろりえ 下 舞
か 上 我身柳乃志操 上巻 露の万少人
うた 上 けろりえ 下 舞
か 上 我身柳乃志操 上巻 露の万少人

まきゆぬ 上巻 へいそんはろちあふ
うた 上巻 けろりえ 下 舞
か 上 我身柳乃志操 上巻 露の万少人
うた 上 けろりえ 下 舞
か 上 我身柳乃志操 上巻 露の万少人
うた 上 けろりえ 下 舞
か 上 我身柳乃志操 上巻 露の万少人

きけんやー さま那も築盛乃
人や母 さまのうきとけとも
心もやまうぬひの侍ー人
のたさふ冬なま子侍為よとひ
折ふ 上落 河城なハ侍も其うき
親子子うわくもをぬ花様
子う御 誘路よ 下 様子覚く

交けち暮かた見えもわ果の河さ
下 我子方らん 上落 三子ぬり
程うわうぶお様もさき親と子
上 此ののほふさきあり様とも
上 ちのりー那様ーおもいそを
下 かくくみまな 上落 さくくく子
花の影りま乃こい子あわわ

